

校長室より⑥ ～「洗う」「磨く」「整える」～

猛暑の日々から一転、過ごしやすさを感じられるようになってきました。

今朝も窓を開ければ、富士宮の清々しい風のおかげで、校長室が新鮮な空気で満たされます。

グラウンドからは熱心に朝練習に励む、ソフトテニス部、彼らの声が、ボールの響きが伝わってきています。トラックには陸上部員の姿も見えます。校舎内は…、職員室前の廊下、自習スペースには、机に向かう西高生の姿が。

それぞれの思い、それぞれの願いがそこにはあります。どうか努力が実りますように…。

○今日はまず、私の思い出話をさせてください。

かつてお世話になった学校のあるクラスで、生徒に「講話」をさせていただきました。その時のお題は「私の好きなもの、好きなこと。」 みなさんなら、どんなお話をされますか？

私のテーマは 「洗う 磨く 整（ととの）える」。

実は自分は嫌いではない（＝好きなのではないか？）と気づいてしまったのです、お題をいただいた、あの時に。

「洗う」「磨く」…好きですね。子どもの頃のお手伝い。家族の中で、私の役割は風呂洗い。レギュラーメニューと特別メニュー。勝手に自分で考えて、時間と気持ちに応じてやっていました。

今でも洗車に窓ふき、靴磨き。「没頭できるひととき」がそこにはあり、実に心地良いものです。

「整える」…日々の清掃分担で、例えば印刷室を担当します。これがいいんです。角々（かどかど）を整える。例えば置かれた紙束の、角（かど）を整える…。いいものですね。これには付録のお話があって、その学校で出会う生徒の中には、必ず、私以上に「美しさ」を求める＝良い仕事をする生徒がいるものです。とてもかないません（笑）。忘れられない卒業生の中には「黒板ふき」。黒板を消す、整える。マイスターが必ずいました。（卒業生諸君、君らのことはしっかり覚えていきます。君らが手をいれてくれた黒板の美しさ、すばらしかったよね！）

君らと私とのこだわり、これで言うならば、WC 清掃もまた、然（しか）り。忘れられません。

「洗う」「整える」。ここでも私がかかわない、マイスターが、必ずいてくれました。黒板でも WC 清掃でも、自分が磨いた、整えた、そういえる「場」が校内に一つある。学校の中で実にこれは大きいのです。

家族貢献に学校貢献。こうした経験の先に、一大人としての地域貢献があるのかもしれません。

西高生諸君、君らもよかったら「洗う」「磨く」「整える」ひとときを、毎日の暮らしの中の、どこかに見出してみてください。続けていくうちに、きっと、「安らぎ」を味わえるようになるはずです。

○今回はもう一つ。この頃、何となく思ったことです。

何をするにしても 急げ、急げ スピード感をもって…。

そんな（周りから「強いられる」）時代を生きながらも、焦らず 急がず 慌てずに。

「本質」を見抜く「眼力（がんりき）」を備えた人になりたいと、私は思っています。

周りの「評価」に「一喜一憂」させられる のではなく、誠実に「自分」に向き合う＝正しく自分を「評価」できる人でありたい。

認められたい、誉められたい、そうした気持ちで何かに向かうのではなく、むしろ

「誰も認めてくれない。誰も気づいてくれない。それでもかまわない。私は続ける！」

そんな思いを大事にしたいと思うし、そうやってコツコツ、努力を重ねる君らに出会えると、心の底から「がんばれや！」と、ついつい応援したくなるものです。

なかなか結果が出ない、うまくできないな、大丈夫だろうかと、不安を抱えている君へ。

どこかで教わった言葉の数々が、今、「短冊」になって、私の校長室には掲げられています。

私の大事な「宝物」です。 まさに、今、目の前に掲げられた一枚が、

「一つの幸運/成功をつかむためには、平均九回くらい、失敗をしているのです」

と教えてくれています。

九回目までの失敗であきらめていたなら、その先の「成功」はなかった、ということになる。

必ずチャンスは来る。必ず好転する。今はどんなに苦しくても、きっと大丈夫だ！

周りを見ることです。君と同じく苦労しながらも、頑張っている人たちがいます。

○今日も富士宮西高等学校のホームページを御覧いただきまして、誠にありがとうございます。

西高の強み。チーム皆で互いに力を引き出し合うこと。 これは実に心強い。 感謝

校長 鈴木邦浩（令和7年10月上旬）